

令和8年1月1日
第538号



鼻高公民館だより

発行：高崎市鼻高公民館 高崎市鼻高町33-5 電話・FAX 322-9100
まなびネットたかさきHP <http://takasaki.manabi365.net/>



葉が少ない時期にこそ野鳥の姿が観察しやすい時でもあります。今回は、少し足を延ばして玉村町の水辺の森公園での野鳥観察会もあります。鳥類学者の説明を受けながら楽しむオッチャングをします。

【期日】令和8年1月26日（月）・
2月2日（月）全2回
(1回のみの参加でも可)

【内容】
《第1回》1月26日（月）、碓氷川渓
で野鳥観察及び学習
※時間 午前9時～午後1時
鼻高公民館へ午前9時集合

《第2回》2月2日（月）、玉村水辺
の森公園を散策し、生息している
野鳥や飛来する冬の野鳥について
観察と生態学習。

※時間 午前8時～午後1時
鼻高公民館へ午前8時集合、群
馬八幡駅から新町駅まで電車移動
(電車代は各自負担)、徒步にて水
辺の森公園まで至る。

※小雨実施、荒天の場合は鼻高公
民館で学習。予定につき観察場所
が変更になる場合があります。

《参加者募集》

散策ウオッチャング教室



葉が少ない時期にこそ野鳥の姿が観察しやすい時でもあります。今回は、少し足を延ばして玉村町の水辺の森公園での野鳥観察会もあります。鳥類学者の説明を受けながら楽しむオッチャングをします。

【対象】市内在住の成人（鼻高地
区住民優先）15人

【参加費】無料

【服装と持ち物】歩きやすい服装
(防寒着等)、マスク、雨具、筆
記用具、飲み物、双眼鏡、野鳥
図鑑(持っている人)

【講師】日本野鳥の会・群馬県自
然保護連盟・群馬県自然環境調
査研究会会員、元学校教諭
谷畑 藤男先生

○)
【申込み】1月5日（月）午前9
時から高崎市鼻高公民館で受け
付けます。（電話322-9100）

【期日】令和8年2月6日・20日、
3月6日・13日、毎回金曜日、
全4回

【時間】午前10時～正午

【場所】鼻高公民館・2階講義室

【定員】市内在住の人、20人程度

【費用】無料

【持ち物】筆記用具

【講師】元大学講師
植原孝行先生

1月・2月の休館日
令和7年12月29日（月）～1月3日（土）年末年始休館日
令和8年1月12日（月）成人の日
令和8年2月11日（水）建国記念の日
令和8年2月23日（月）天皇誕生日



NHK朝ドラ「ばけばけ」

「小泉ハ雲の不思議な世界」を知る

II 鼻高公民館 文化教養講座 II 参加者募集

NHK連続テレビ小説『ばけばけ』のモデル・小泉ハ雲(ラ
フカティオ・ハーン)は、「怪談」「知られぬ日本の面影」「骨
董」などで知られる明治時代の作家です。明治期の日本を海
外に紹介したことや「耳なし芳一」「雪女」「ねぐら首」と
いった日本に伝わる口承の説話を記録・翻訳し世に広めた功
績が評価されています。その作品を読み、解説しながら「小
泉ハ雲」の人生を振り返り、不思議な世界を探ります。

【申込み】1月5日（月）から
平日の午前の時から午後5
時までに鼻高公民館へ申し
込みください。（電話322-
9100）

裏面もご覧ください。



鼻高の所領は? 領主の変遷

鼻高の四季

II 鮎真で綴る鼻高の庄 ④2

箕輪城攻防戦その1 II

鼻高から八幡の庄と云われる北方面（八幡・板鼻・若田・里見・藤塚・豊岡・・・等々）を眺めていると、この田視である鼻高などいひで歴史上様々な事が起つて、いたと走馬灯のように思ひ出されます。

1333年太田市新田の生品神社で挙兵した新田義貞軍が、此處八幡の八幡宮で5000騎の軍勢で結集し、戦勝祈願・出陣式を行つた後に鎌倉街道を東に進み、北条氏の鎌倉幕府を滅ぼしたという歴史上の史実があつたことなど、令和の現在に我々の住んでいる一帯も日本の歴史の舞台の一つになったのだと思つとゾクゾクします。ただ私見ですが、此處で行われた歴史上最大の史実は戦国の永禄年間に西上州の霸権を競つた甲斐の武田氏と箕輪の長野氏の間で行われた箕輪城攻防戦だと思います。身近なところで起つた地域の史実なので、皆さんと一緒にその過程をタイムスリップしながら深読みしてみましよう。鼻高も歴史の舞台だったよつた気がします。

元年（1261）です。文献では承和3年（1347）の大日本地名辞典に八幡の庄として確認できるそうです。私たちの住む鼻高の所領はどのように変遷したのでしょうか？確認できる文献では、戦国時代の1561年ころまでは藤岡の平井に居した関東管領北条憲政であり、その後は西上州の盟主であった箕輪の長野氏だったと云われます。永禄9年（1566）箕輪城落城後は甲斐の武田氏、そして天正10年（1582）からは織田氏の滝川一益に移り、その後北条氏そして天正18年（1590）から



中鼻高地区からの遠望

徳川氏となり、慶長6年（1601）からは前橋（厩橋城）の酒井家となりました。鼻高はその後、寛延2年（1749）から明治まで安中板倉家の所領となつて府討伐戦に陣中守り神として持参した八幡宮の阿弥陀如来像の背に刻印された「上州八幡の庄・・・弘長元年（1261）」です。文献では承和3年（1347）の大日本地名辞典に八幡の庄として確認できるそうです。私たちの住む鼻高の所領はどのように変遷したのでしょうか？確認できる文献では、戦国時代の1561年ころまでは藤岡の平井に居した関東管領北条憲政であり、その後は西上州の盟主であった箕輪の長野氏だったと云われます。永禄9年（1566）箕輪城落城後は甲斐の武田氏、そして天正10年（1582）からは織田氏の滝川一益に移り、その後北条氏そして天正18年（1590）から

97石、藤塚村234石、鼻高村431石、金井渕村249石、町屋村238石、下大島村364石、若田村601石であり八幡地区全体では4322石だったそうです。

箕輪城攻防戦の前夜

甲斐武田氏との箕輪城攻防戦はどのような経緯で起つたのでしょうか？その流れを年代別に追つてみるのも面白く興味を感じます。室町時代末期、鼻高を含む一帯は室町幕府から関東管領として任せられた上杉家の所領だったと思われます。幕府の権力が弱まるとして、幕府の権力が弱まるとして、戦国大名が台頭し近隣諸国を勢力下に收めながら天下統一を目指したのでした。私たちの住むここ鼻高や八幡地域はどうだったのでしょうか？次号で時系列を整理しながらその時代背景を追つてみましょう。

（次号に続く）